

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

12日目【2000年4月25日 午前】

全37日間

人里離れた、秘境〈蘭州〉前半

今日はここから南西へ170キロ離れた、炳靈寺石窟に行くため、ホテルスタッフからのモーニングコールで早朝に起こされた。この時期、中国は観光シーズンではない。観光ガイドブックには、炳靈寺石窟ツアーが、毎日ホテルの旅行会社から出ると書いてあったが、それは夏の観光シーズンだけであった。

旅行会社と交渉して分かったことは、炳靈寺石窟ツアーは中国の旅行会社にとっても、かなり厄介だということ。なぜかと言うと、炳靈寺石窟へはホテルから2時間タクシーで行き、そこから船で黄河を50キロ行く。この船の料金が揉めるそう。今はオフシーズンのため、船頭たちは手ぐすね引いて待っている。日本人が一人で行けば、罨の中に飛び込んで行くようなものと言われた。

確かに、これらのことは、観光ガイドブックでも警告されていたが、まさか現地の旅行会社の人に心配してもらえると、思ってもみなかった。

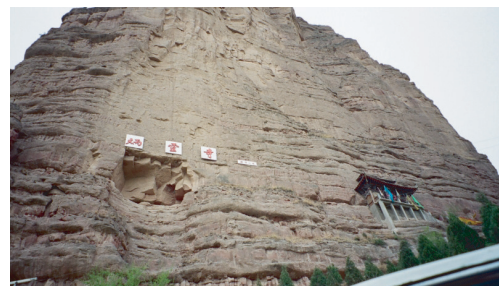
ここで昨日の話に戻る。炳靈寺石窟に行くため、ホテルのマネージャーと旅行会社の人と、簡単な英語と筆談で打ち合わせをした。先ず言われたのが、今は行くべきではないと。しかし、私がどうしても行きたいと強く伝えた結果、現地では相手から何を聞かれても話さず、会話を交わさず、「中国人」になりきることにしたと云う訳だ。



炳靈寺石窟への船着き場



黄河を50キロ行く



そびえ立つ炳靈寺石窟への入口

住職レター

先月の住職レターで、『物には魂が宿っている』という話をしました。私自身が、改めて大切な事に気付きを得ることが出来たのか、父の使っていた念珠を手にする父を思い出し、節折（せったく）を手にした時には、会ったことのない先祖にまで、思いを馳せました。

私がいつも法事に参勤して、仏説阿弥陀経を称える時に使っている節折、せったくと読みます、一般的には拍子木と言われますが、かなり古い物（仏具）、らしいです。

三十年前、私が住職になって、初めてこの節折を手にした時、祖母が、「おじいちゃんも使っていたんよ」と言っていました。私が、「いつから使つとるん？」と聞くと、「おじいちゃんのおじいちゃんが使つとったらしい」とのこと。という事は、少なくとも、この節折は、五代前から使い続けているようです。一代を約三十年として、最低でも百五十年が経過。どうりで、打ち付ける箇所が、削れている筈だと納得しました。同時に、歴代住職が使っていた、この節折が重たく感じてきました。歴史の重みってことでしょうか。



父が大切にしていた念珠と五代前から使い続けている節折

法事にお参りする方の仏間に、火鉢が置いてあります。今は使われていません。私が見る限り、ただの古い物でした。ある時、その家の方が、この火鉢は、亡くなった親父が大切にしていた、いつも火鉢に身を屈めて手を温めたり、酒を燗したり、するめを焼いていた。火鉢を見るたびに、亡くなった親父を思い出すと、話して下さいました。

こんな話を聞いてから、その方の家の火鉢が、ただの古い物ではなく、魂が宿ったように感じました。

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

ホテルのマネージャーと旅行会社の人は、大変心配をしてくれていた。船の料金は交渉次第とのこと。妥当な金額と昼食代をタクシーの運転手に、事前に渡して、何を聞かれても喋らないようにと、何度も言われた。

そして今日の早朝、ホテルを出発前、旅行会社の人がタクシーの運転手に、万事打ち合わせ通り、この日本人を安全に全て助けるようにと、強く言って、送り出してくれた。

今朝のモーニングコールに話を戻す。早朝にはホテルを出発する必要がある。ホテルのマネージャーが「一人で起きられるか?」と聞いてきた。私が「ノープロブレム! (大丈夫だ)」と返答するも、「心配だからモーニングコールをする!」と言われた。私の言葉が信用ならなかったのか、マネージャーが良い人だったのか、おそらく両方だろう。

いろいろ画策して行った炳靈寺石窟だったが、行った甲斐があった。小型のモーターボートにタクシーの運転手と私を乗せて、黄河を上ること約1時間、そこは人里離れた別世界、まさに秘境であった。

12日目 [2000年4月25日 午前]
人里離れた、秘境〈蘭州〉後半

全37日間



船着き場の土産物屋



石窟へ向かう参道



炳靈寺石窟の石門

講師 長尾量之師

(東広島市黒瀬町浄願寺)

「孟蘭盆会法要」
(柏原説教堂)
八月二十二日 (金曜日)

午後一時半 昼席
午後十六時 夕席



講師 米田順昭師 (廿日市市最禪寺)

午前十時 朝席
午後一時半 昼席

「孟蘭盆会法要」
(善教寺本堂)
八月九日 (土曜日)

*毎月十六日に本堂において勤めております。

午後一時半

七月十六日 (水曜日)
「宗祖聖人月忌・
門信徒祥月命日法要」 (善教寺本堂)

今後の法要スケジュール